

松井田城跡案内図

47



松井田城跡

この城跡は、松井田町大字新地、高梨子および新井に位置し雄水川と九十九川にはさまれ、標高およそ250-410mの尾根上に築城された戦国期の大きな山城です。

城跡の主要部は、およそ東西に1km、南北に1.5kmにおよび、ところどころを絶切で断ち、その間に10カ所ほどの郭が並んでいます。

この城は、数度の改修がなされ、北条氏支配の天正年間には大道寺越守政繁が城主となり大改修拡張し、現遺構のように完成し北条氏（小田原）の築城法を示す典型的な山城となりました。

天正18年（1590）、豊臣秀吉の小田原攻めで、前田利家、上杉影勝、真田昌幸らに攻められ落城しました。

落城後も、城としての遺構をほぼ完全に残している領内はもろろん全国的にあてもきわめて重要な城跡です。

- お願い：城跡一帯は、個人所有の山林です、樹木を傷めないでください。
- 植物や昆虫を採集しないでください。
- ゴミは持ち帰りましょう。
- たき火、タバコの吸殻はすてやめましょう。

松井田町教育委員会